

# 人文系ポストドク問題の本質は何か？ －大学にできる3つのこと－

近田 政博

2014年6月29日 日本哲学会

若手研究者支援ワークショップ



神戸大学

# 自己紹介

- 神戸大学 大学教育推進機構
  - 神戸大学の教育部門の本部運営スタッフ
- 同大学 大学院国際協力研究科
  - 教育協力論講座を担当(研,M, D, P 計25人、教授2人体制)
- 2014年3月末まで名古屋大学に勤務
  - 高等教育研究センターでFD・SDプログラムや教材を開発
  - 大学院教育発達科学研究科 高等教育学講座
- 主な著書
  - 『成長するティップス先生－授業デザインのための秘訣集』(2001年、共著)
  - 『近代ベトナム高等教育の政策史』(2005年、単著)
  - 『学びのティップス 大学で鍛える思考法』(2009年、単著)
  - 『大学教員準備講座』(2010年、共著)
  - 「翻訳ベトナム高等教育法」(2014年、『名古屋高等教育研究』第14号、299-337頁)

# 私自身の世代感覚

- 小講座制による「少人数の徒弟制文化」の最後の時代(1990年代前半)に大学院で育てられる
- 1995年に助手になったとたんに大講座化、大学院重点化で大学院生が急増(他大学出身者、社会人が激増)
- 30代後半からは大衆化した大学院生を対象に授業を担当、40代に入ってから研究指導、学位審査を担当
- いわば「移行期世代」: 徒弟制の時代に育ち、大衆化の時代に教鞭を執ることのジレンマ
  - 中堅層の大学教員に共通する悩み

# 若手・非一常勤職研究者アンケートの自由記述意見から **—世代間対立？—**

- 大学教員人事の不透明さ
  - 研究業績は公平に評価されているか
  - 研究大学の大学院が非常勤ポストを独占している
  - 非常勤職と常勤職の給与格差
- 哲学研究者に対する新しいニーズ
  - 応用倫理、クリティカル・シンキング、科学コミュニケーション、アカデミック・リテラシー
  - 従来の大学院教育でこのニーズに対応できるか
- 哲学会へのリクエスト
  - 査読システム改善、各種助成、情報提供など

# しかし、失礼を顧みずに申し上げれば、

- **採用側の視点について関心が低い**かも

- 人事は研究業績だけで決まるわけではない

- タイミング、年齢、既存スタッフとの相性、マネジメント能力
- 研究員、助教など若手人事の多くは「期待値」でとる

- 組織の一員として一緒に働けそうか

- 授業担当科目などにおける柔軟性はあるそうか
- 管理運営業務を嫌がらずに汗をかいてくれるか

- 大衆化した大学生のロールモデルたりうるか

- 学生とコミュニケーションがとれそうか
- 職員や保護者と連携できるか
- 組織は概して「若くて、快活で、柔軟な人」をほしが

# 大衆化した大学ではどんな教員を採用したいか

- マニアックな研究業績よりもむしろ、
- 学生のロールモデルとなるような「社会人基礎力」を備えていること
  - 組織のニーズを察知するコミュニケーション能力
  - 時間管理、危機管理
- 学生を退屈させずに授業できること
- 学生に基本をきちんと教えられること
  - 社会常識やマナー、しつけ
  - 「読み書きそろばん」

# 各大学はなぜ定員割れしている大学院の定員を削減しないのか？

- 最終的には常勤教員の削減につながるから
  - 身も蓋もないので、誰も言わない(大学院は採算がとれないことを知っている職員はそう思っている)
- 留学生、他大学出身者、社会人で無理して定員を埋めている
  - 研究大学の学部生は研究者の就職難を知っているので、人文系大学院に残りたがらない(これも問題)
- 一番苦勞を強いられるのは他大学出身者
  - 研究室で放置されやすい
  - 留学生の多くは帰国する(最近では日本就職組も多い)。社会人は就職の心配不要。

# 企業は文系の院生をどう見ているか

- 年齢が高いぶん、成長の伸びしろが少ない
- 勉強に励んできただけに、行動することよりも考えることを重視し、フットワークが重い
- 自分なりに理屈を考えようとするため、組織の理屈に納得しにくい
- アカデミックな世界に身をおいてきたため、目標の捉え方や人との関わり方、時間の使い方などが大きく異なるビジネスの世界に適応しにくい

出典：佐藤・三浦・青木編著、2014年、116頁から引用



# つまり、 人文系大学院の本質的問題は？

- 各大学は需給バランスを無視して大学院生を募集している
  - 日本哲学会は哲学分野の大学教員需要を把握しているだろうか
- 重点化して定員を拡大したのに、学部生はむしろ人文系大学院への進学を忌避している（後述）
  - 優秀な学部生の「引き抜き」に苦勞している
- 院生の多くは研究大学でマニアックな論文作成に忙殺され、大衆化した大学や現実社会のニーズに疎い

# 3つの提案－大学にできること

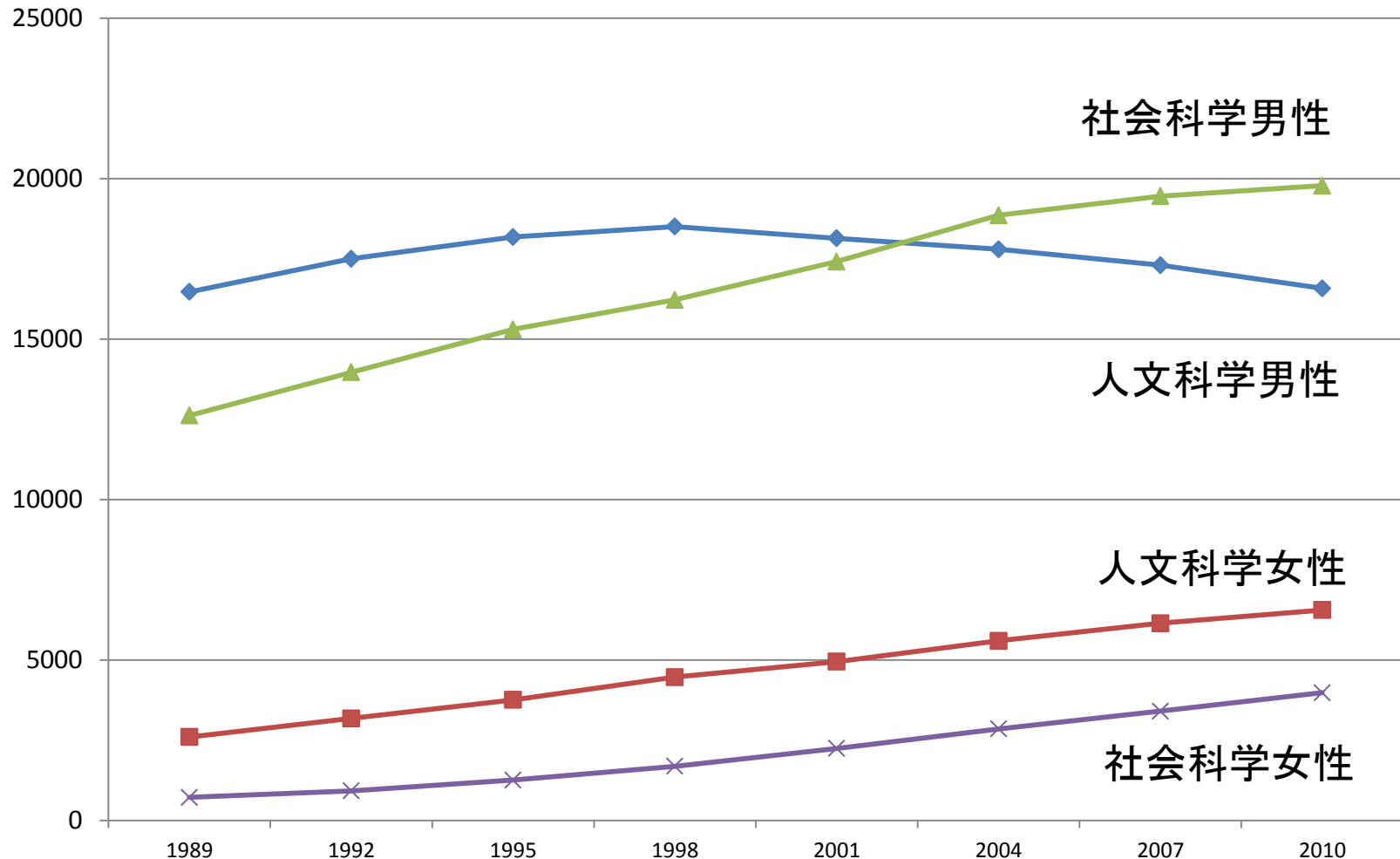
- 提案1. 博士課程の定員を削減する
- 提案2. 大衆化した大学で教鞭をとることの意味を大学院生に伝える
- 提案3. 優秀な学部生に動機づけする

# 提案1. 博士課程の定員を削減する

- 各専門学会で学問分野ごとの新規教員採用数を計算する
- 各大学が持つべき定員数を割り出す
- 博士課程(後期課程)の定員を縮小し、修士課程(前期課程)あるいは社会人プログラムに振り替える
- むやみに博士課程を設置する必要はない
  - 経営的に成り立たない
  - 卒業生の就職先に困る

# 参考：大学の専任教員数

## 人文科学系の男性教員が減少傾向



出典：文部科学省『学校教員統計調査報告書』各年度版より作成

## 提案2. 大衆化した大学で教鞭をとることの意味を大学院生に伝える

- 大衆化した大学の教育目標は、**良き市民、良き社会人を育てること**
  - そのために必要なリテラシー、教養は？
- 多くの高校生、大学生は詰め込み式の受験勉強に嫌気がさしている。理科嫌い、数学嫌い、英語嫌いも多い。
  - **学び続けることの楽しさや大切さ**をどう伝えるか

# 中学2年生「**数学**の勉強は楽しい」

国／地域	強くそう思う		そう思う		そう思わない		まったくそう思わない	
	生徒の割合 (%)	平均得点	生徒の割合 (%)	平均得点	生徒の割合 (%)	平均得点	生徒の割合 (%)	平均得点
日本	13.3	613.6	34.3	587.7	36.4	556.4	16.0	519.0
オーストラリア	21.2	543.6	40.5	513.0	22.2	485.5	16.1	463.9
台湾	15.1	677.9	31.5	646.2	30.0	600.5	23.5	527.9
イングランド	18.2	534.9	45.3	513.7	22.2	499.6	14.2	463.2
フィンランド	10.3	554.8	35.9	531.0	34.3	507.0	19.5	475.7
香港	27.3	624.6	40.7	590.2	19.4	563.5	12.6	525.3
ハンガリー	18.7	537.6	32.4	508.3	28.4	503.7	20.4	473.8
イタリア	19.0	533.6	39.8	507.7	26.4	483.3	14.8	455.4
韓国	10.3	672.4	35.3	646.1	38.5	593.9	15.9	546.6
ロシア	29.7	568.8	42.3	537.6	22.8	514.1	5.1	500.2
シンガポール	43.1	630.9	40.1	603.9	10.5	589.1	6.3	558.7
スウェーデン	19.9	515.6	43.9	492.0	25.2	470.7	11.0	438.8
アメリカ	27.3	529.6	37.3	514.1	18.7	503.0	16.6	480.0
国際平均値	33.1	492.7	37.6	468.9	17.2	454.0	12.1	429.5

出典 [http://www.nier.go.jp/timss/2011/T11\\_gaiyou.pdf](http://www.nier.go.jp/timss/2011/T11_gaiyou.pdf)

# 中学2年生「理科の勉強は楽しい」

国／地域	強くそう思う		そう思う		そう思わない		まったくそう思わない	
	生徒の割合(%)	平均得点	生徒の割合(%)	平均得点	生徒の割合(%)	平均得点	生徒の割合(%)	平均得点
日本	20.3	589.9	42.4	563.3	28.2	541.8	9.1	504.4
オーストラリア	28.8	550.1	41.3	523.0	18.1	493.8	11.9	476.4
台湾	16.7	609.7	38.9	573.0	31.4	548.9	13.0	513.7
イングランド	36.5	551.0	42.4	532.9	13.7	514.7	7.4	488.2
香港	32.7	553.9	46.5	534.8	15.1	516.9	5.7	488.5
イタリア	25.8	517.9	47.5	499.0	20.2	493.2	6.5	476.6
韓国	12.0	616.0	39.1	578.4	38.1	538.1	10.8	511.1
シンガポール	42.3	611.2	44.6	584.8	9.2	547.3	3.9	523.3
アメリカ	37.0	544.7	37.2	525.6	14.8	510.4	11.0	485.9
国際平均値	45.1	497.5	35.0	482.1	12.8	465.3	7.1	437.9

出典 [http://www.nier.go.jp/timss/2011/T11\\_gaiyou.pdf](http://www.nier.go.jp/timss/2011/T11_gaiyou.pdf)

# なぜ、多くの研究大学で大学院生用のプレFDプログラムが増えたのか？

- 送り出す側（研究大学）と受け入れる側（非研究大学）のミスマッチを小さくしたい
- 大学教員志望の大学院生（後期課程、博士課程）は少なくないが、**教授能力形成の教育・研修機会**は少ない
- TA用の研修プログラムが実施されているのは、ごく一部の大学に限られる。しかも、内容はたいてい教育補助業務に限定され、大学教員として求められる授業スキルとしては不十分



# 東北大学「大学教員準備プログラム」

東北大学  
大学教員準備プログラム

### 自己省察力を養う

プログラム期間中を通して、リアクション(省察)の実践に取り組みます



■(課題)「フレクティブ・ジャーナル」  
■(課題)「課題論文」[プレゼンテーション]

### 仕事を理解する

大学教員の役割や専門性について学びます



■(課題)「社会の中の大学教員」  
(別冊 東北 大学教育支援センター発)

### 基礎知識を得る

授業設計、運営に必要な理論を学びます



■(ワークショップ)「授業デザインシナリオ作成」  
(東北 高教教職教育・学生支援機構 講師)

### 実践力を磨く

授業実践に対するフィードバックを得て、自信をつけます



■(ワークショップ)「マイクロティーチング」  
■(ワークショップ)「模擬授業」

### 比較の目を育てる

異分野の研究・教育文化に触れ、比較の視点を養います



■(講義)「海外国の高等教育を知る」 ■(海外集中コース)UCBにおける1週間研修の研修  
(Linda von Horne 教育学, GSI Teaching and Resource Center, University California, Berkeley)

### 同僚とつながる

人的ネットワークを育み、組織の一員としての大学教員について考えます



■(単独)の参加と交流 ■(プログラム)OB/OGとの交流

### 先達から学ぶ

経験豊かな先輩教員が「先達」として皆さんの成長を応援します



■(講義)「先輩教員との対話」  
(東北 高教教職教育・学生支援機構 講師)

## 大学教員を目指す 大学院生・ポスドク のみなさんへ

将来、大学教員になるために知っておくべきことは、どんなことでしょうか。  
東北大学 大学教員準備プログラム Tohoku U. PFFPで、  
大学教員に求められる能力や知識、実践力を身につけませんか？

大学教員の仕事は教育、研究、管理運営、社会サービスなど多岐にわたり、  
新任教員は、戸惑いや大きなストレスにさらされること少なくありません。  
大学を取り巻く環境は日々変化していますが、  
将来の大学教員を目指す皆さんが、大学教育に関する体系的な知識を学ぶ機会が充実しているといえます。特  
に、教育活動には、授業設計や学際的な教授法、授業の運営、  
学生指導など様々なスキルが必要ですが、こうした知識を身につける機会のないままに、  
教壇に立ち、実際の教育活動を通して経験的に学んでいかざるを得ないというのが実情です。

そこで、東北大学 大学教育支援センターでは、  
将来の大学教員を目指す大学院生、ポスドクのみなさんの  
円滑な初期キャリアのスタートに必要な学びの場として、  
Tohoku U. PFFPを提供しています。  
将来の同僚である他の参加者や、  
経験豊富な先輩教員とのインテラクティブなやりとり、  
実際の授業の参加などを通して、  
大学教員としての基礎力を身につける、  
絶好の機会です。

東北大学 大学教員  
準備プログラムでは、  
大学教員に求められる  
能力や知識を実践  
的に学びながら、未来  
の同僚や経験豊富な  
先輩教員との対話を  
通じて、大学教員と  
しての自分、教育観、大  
学教育を考える視野  
を身につけます。

Tohoku U.  
Preparing  
Future  
Faculty  
Program



Future Faculty Prog

Tohoku U.  
**PFFP**  
Preparing Future  
Faculty Program  
東北大学  
大学教員準備  
プログラム

2014年  
6月20日(金)  
14:00-18:00  
事前説明会  
開催!  
川内 希子(学芸員)  
川内 希子(学芸員) | 川内 希子(学芸員) | 川内 希子(学芸員)

# 東京大学「大学教育開発論」

## プログラム


科目名 大学教育開発論

日時 2014年度夏学期  
木曜隔週4, 5限 駒場キャンパス  
金曜隔週3, 4限 本郷キャンパス

場所 駒場キャンパス: KALS  
本郷キャンパス: 福武ホール ラーニングスタジオ(予定)

応募資格 東京大学に所属する大学教員をめざす大学院生(多数の場合はセレクション有)

定員 各25名

シラバス  [こちらよりダウンロードしてください。](#)



Future Faculty Program

東京大学  
The University of Tokyo

東京大学フューチャーファカルティプログラム(FFP)  
大学教員をめざす  
大学院生の皆さんへ

FFPについて ① 全プログラム修了者には履修証が交付され履修歴に書くことができます。  
② 全学の大学院生と共同して取り組みます。

FFPプログラムの目的 ① FFPプログラムの中心となるのは、大学教育の質の向上と、大学教員をめざす大学院生の育成です。また、大学教員をめざす大学院生の育成を通じて、大学の教育の質を向上させることにも貢献します。

FFPの参加資格 ① FFPプログラムの中心となるのは、大学教育の質の向上と、大学教員をめざす大学院生の育成です。また、大学教員をめざす大学院生の育成を通じて、大学の教育の質を向上させることにも貢献します。

FFP参加希望の方、興味ある方は、下記プレワークショップ(授業説明会)へ  
開催日◎2013年4月11日(木) 場所◎東京大学本郷キャンパス 東郷館第12号館100号室  
申込み◎<http://www.todaild.com/> 申込み締切◎2013年4月9日(火)

東大FFPプレエントリーへ >

# 名古屋大学「大学教員準備講座」

## 大学教員準備講座 2014

2014年8月4日 [月] ~ 8月6日 [水] 09:00-18:00

東山キャンパス文系総合館7F オープンホール

——大学教員をめざす君へ

大学教員になるために必要な知識と技能の獲得をめざし、多面的に大学教員の職務を検討していく3日間集中プログラムです。受講生の今後のキャリア設計・開発に資するよう、グループワーク等を適宜織り込んで実践的に進めていきます。関心のある大学院生・ポストク等のみなさまの参加をお待ちしています。

8月4日 [月]	8月5日 [火]	8月6日 [水]
第1講 大学教員という職業	第6講 大学教育におけるチームワーク	第11講 大学教員への第一歩
第2講 授業を設計する	第7講 学生の指導を行う	第12講 学生のキャリア形成を支援する1
第3講 教授法の基礎1	第8講 学生に働く力をつけさせる	第13講 学生のキャリア形成を支援する2
第4講 教授法の基礎2	第9講 大学教員の倫理	第14講 多様な高等教育機関
第5講 学習成果を評価する	第10講 学生指導の方針を持つ	第15講 大学教員のライフコース

本講座は、教養教育院が開講する大学院共通科目『大学教員論』となっております。

【講師】 夏目達也・中井俊樹（高等教育研究センター）  
【教材】 『大学教員準備講座』（玉川大学出版部、2010）

【参加申込み】 次の順序でお申込み下さい。

ステップ1 4月17日（木）17時までに教養教育院（E-mail: kyo-kika@adm.nagoya-u.ac.jp）へ電子メールで申請する（表題は『大学教員論』とし、本文に学生番号、氏名、所属研究科・専攻、連絡先、受講理由を明記してください）。

ステップ2 受講を許可された人は、各研究科教務担当で履修登録をする。

◎ 4月17日以降も受講を受け付けております（履修単位としては認められません）。その場合は、高等教育研究センター（E-mail: info@cshe.nagoya-u.ac.jp）まで氏名・所属をご連絡ください。

CSHE 名古屋大学高等教育研究センター  
Center for the Studies of Higher Education, Nagoya University

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp>

# 大学教員

Preparing Future Faculty in Japan

# 準備講座

夏目達也

近田政博

中井俊樹

齋藤芳子

## アカデミック・ライフへの招待

大学教員になる前に知っておきたいこと、  
習得しておきたい<sup>スキル</sup>技能を詳説

玉川大学出版部 定価：本体2400円（税別）

# 教科書『大学教員準備講座』の内容

- 第1講 大学教員という職業（大学教員職の歴史、大学教員職の特徴）
- 第2講 授業を設計する（授業のシラバス、シラバス作成法）
- 第3講 教授法の基礎（授業づくりの基本の型、学生参加型授業）
- 第4講 学習成果を評価する（教育評価の論点、評価の具体的方法）
- 第5講 書く力をつけさせる1（事前準備、授業中の働きかけ）
- 第6講 書く力をつけさせる2（採点、フィードバック）
- 第7講 大学教育におけるチームワーク（大学内の組織、学内リソースの活用法）
- 第8講 国際化のなかの大学教員（国際化の現状と意味、教育の国際化への対応、研究の国際化への対応）
- 第9講 研究のマネジメント（大学教員の研究活動の特徴、研究プロジェクト管理の基本）
- 第10講 社会サービスに取り組む1（社会サービスの概史、社会サービスの類型）
- 第11講 社会サービスに取り組む2（社会サービスにおける現代の課題）
- 第12講 大学教員の倫理（倫理とは何か、教育・研究の倫理的実践、大学教員の自由と責任）
- 第13講 学生のキャリア形成を支援する（就職支援からキャリア形成支援への転換、主体的進路決定の支援）
- 第14講 多様な高等教育機関（教育・研究条件の多様性、多様性への対応）
- 第15講 大学教員のライフコース（生活設計、職階で異なる仕事）

# 京都大学「大学でどう教えるか」

## 京都大学のプレFD

PREPARING FUTURE FACULTY PROGRAM of Kyoto University



京都大学 Center for the Promotion of Excellence  
in Higher Education, Kyoto University  
高等教育研究開発推進センター

京都大学 | 国際高等教育院

▶ サイトマップ

▶ お問い合わせ

京大のプレFDとは

大学院生のための  
教育実践講座

文学研究科プレFD  
プロジェクト

研究科横断型プログラム

サイエンス  
コミュニケーター事業

関連リソース

[京都大学のプレFDトップ](#) > [大学院生のための教育実践講座](#)

### 大学院生のための教育実践講座

- ▶ プログラムについて
- ▶ 過去の取り組み

## 大学院生のための教育実践講座

Program for Graduate Students and Postdoctoral Fellows

## 大学院生のための教育実践講座 —大学でどう教えるか—

「大学院生のための教育実践講座」は、将来、大学教育に関わることを希望する京都大学の大学院生、ポスドク、研究員、オーバードクターを対象とし、教員としての自己形成の場を提供し、また現在の大学教育における課題を共有されることを目的に設けられた講座です。

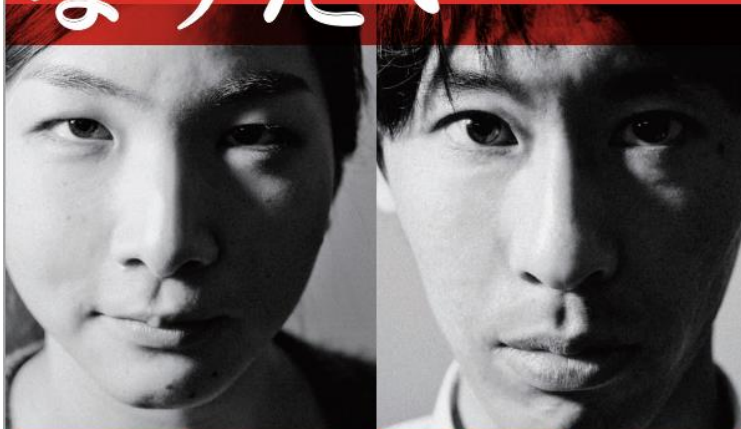
本講座は平成17年度に第1回が実施されて以来、年に一度の頻度で開催されています。受講者からは「大学教育が抱える問題点と、その解決案について具体的に考え、知る機会が得られた」、「世界における大学教育の取り組みを知ることができた」、「参加型で多くの人と交流しながら実践的に学ぶことができた」、「これだけ大学教育について熱を持って考えている人がいるということに刺激を受けることができた」などの感想が寄せられ、毎年非常に好評を得ています。

本講座は大学教員を目指す大学院生が多い本学の特性を活かしながら、全国的にも先駆けとなる「プレFDプログラム」(Preparing Future Faculty Program: PFFP)の取り組みとして、学内外から注目されています。



# 大阪大学「大学授業開発論」

## 大学教員に なりたい



### 大学教員志望の大学院生募集

#### 大阪大学未来の大学教員養成プログラム (阪大FFP) Osaka University Future Faculty Program

大学教員として教壇に立つための様々なノウハウを一緒に学びませんか? 大学教員志望の方はもちろん、他の研究科の院生と交流したい方、キャリアとして大学教員に関心がある方を募集します。すべての研究科の大学院生が履修できますので、研究科の枠を超えて交流してください。

2014年度関連科目「大学授業開発論I」(知のジムナステックス) 開講!  
まずは説明会へお越しください。

1学期: 2014年4月16日(水) 13時~ / 2学期: 2014年10月1日(水) 13時~  
同日とも、豊中キャンパス スチューデントcommons マッチング型セミナー室にて開講



大阪大学教育学習支援センター  
「未来の大学教員養成プログラム (阪大FFP)」  
fjp@tlsc.osaka-u.ac.jp  
http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fjp/



#### 大阪大学未来の大学教員養成プログラム (阪大FFP)

Osaka University Future Faculty Program

#### 大阪大学未来の大学教員養成プログラム (阪大FFP)

Osaka University Future Faculty Program

将来大学教員を目指す大学院生の皆さん、  
教育力のトレーニングは十分ですか?

研究科の枠を超えたネットワークを  
築きませんか?

今、大学現場では、研究力はもちろん、教育力も求められています。採用面接の際には、シラバスの提示や模擬授業の実践を課すところも多くなりました。「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」では、大学教員として教壇に立つための様々なノウハウを学びます。大学教員志望の方はもちろん、他の研究科の院生と交流したい方、キャリアとしての大学教員に関心がある方を募集します。すべての研究科の大学院生が履修できますので、研究科の枠を超えて様々な方と交流してください。

#### 関連科目

#### 2014年度開講科目「大学授業開発論I」(2単位)

1学期: 水曜3・4限 (隔週) / 2学期: 水曜3・4限 (隔週)

※1学期、2学期とも同じ内容です。

#### 概要

本授業ではシラバスの書き方、講義法ならびにアクティブ・ラーニングを促す様々な教育技法の基礎、評価方法について基本的な理論を学びます。これらの知識習得と並行して、シラバスを作成したり、模擬授業(マイクロティーチング)を行ったりといった演習を通して実践力を身につけます。授業形式は、講義法の他、ペア・ワーク、グループ・ワークを取り入れ、研究科を超えた大学院生の交流の機会を多く設定しています。あらゆる研究科の大学院生の受講が可能です。まずは下記の説明会にご参加ください。

#### 履修対象

大学院修士課程・博士課程

#### 説明会の開催

1学期: 4月16日(水) 3限 (13:00~)

豊中キャンパス スチューデントcommons マッチング型セミナー室

2学期: 10月1日(水) 3限 (13:00~)

豊中キャンパス スチューデントcommons マッチング型セミナー室

※詳しい授業内容等はシラバスをご覧ください。

#### スケジュール

- ①オリエンテーションと自己紹介
- ②コース・デザイン(シラバスの書き方)
- ③グラフィック・シラバス作成
- ④講義法
- ⑤講義演習(マイクロ・ティーチング)
- ⑥多様な教育技法
- ⑦クラス・デザイン(授業計画の書き方)と授業計画作成
- ⑧学習評価
- ⑨ルーブリック作成
- ⑩模擬授業とピアディスカッション(1)
- ⑪模擬授業とピアディスカッション(2)
- ⑫模擬授業とピアディスカッション(3)
- ⑬模擬授業とピアディスカッション(4)
- ⑭教育哲学とキャリアデザイン  
(ミニ・ティーチング・ポートフォリオ作成)
- ⑮振り返りと未来授業作成

#### お問い合わせ



大阪大学教育学習支援センター「未来の大学教員養成プログラム (阪大FFP)」  
fjp@tlsc.osaka-u.ac.jp  
http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fjp/



# 一橋大学 文科省特別経費

## 「社会科学系大学院におけるパッケージ型キャリア支援プログラムーキャリア支援室大学院部門設置による支援基盤の確立」



### 【キャリア支援室・大学院部門】

#### toppage

書籍刊行について

#### 【アカデミック・キャリア支援】

アカデミック・キャリア支援とは  
個別相談の案内  
講習会の案内  
授業「発信英語力」  
ティーチングフェロートレーニング・コース

#### 【プロフェッショナル・キャリア支援】

プロフェッショナル・キャリア支援とは  
個別相談の案内  
各種セミナーの案内

#### 【新卒就職に関する情報】

就職活動の進め方  
インターシップについて  
OB・OG訪問の進め方  
外国人留学生向け情報

#### 【担当スタッフ】

スタッフ紹介  
研究室案内

#### 【お役立ち情報】

先輩キャリア・インフォ---

本学キャリア支援室は、研究を基盤とする院生のニーズに対応するべく、2011年度に大学院部門を設置し、院生に特化した進路支援を強化しています。

大学院部門は、大学教員等のアカデミック・キャリアを志望する院生と企業・公務員等への就職を志望する院生それぞれに個別相談や講習会等をつつじて、研究活動、進路選択、就職に関する支援をおこなっています。

人文・社会科学系の大学院のなかで、院生に特化したキャリア支援部門の設置は全国で初めての試みです。

修士課程・博士後期課程、日本人学生・外国人留学生、社会人経験の有無にかかわらず、全学の院生を対象としますので、ぜひ積極的に活用してください。

#### 【お知らせ】

##### <アカデミック・キャリア支援>

[2014.6.18] 6月17日(火)、第2回アカデミック・キャリア講習会「アカデミアでの求職—公募書類作成から面接対策まで」は終了しました。

[2014.5.8] アカデミック・キャリア支援では、国内・海外での調査活動、学位論文・投稿論文の執筆、学会報告、助成金申請、大学教員への求職などの計画や実践に関わる個別相談、また、進学・学修・研究活動の過程で生じる迷いに関する個別相談に応じます。

##### <プロフェッショナル・キャリア支援>

[2014.6.16] 6月25日(水)、7月9日(水)にM1向内向定者座談会を開催します。 **New!!**

[2014.6.3] 6月10日(火)、18日(水)、24日(火)3回に2015年修了者向け面接対策ワークショップを開催します。

**New!!**

[2014.5.26] 6月25日(水) 14:00-18:00に2015年卒向け合同会社説明会を開催します(場所:マーキュリターワー7階ホール) **New!!**

[2013.10.3] 2013年度版の『就職ハンドブック—研究との相乗効果をめざして』と『修士課程院生版>就職活動

人文・社会科学系  
大学院生の  
キャリアを  
切り拓く

〈研究と就職〉を  
つなぐ実践

佐藤 裕・三浦美樹・青木 深 / 一橋大学学生支援センター [編著]

不安を乗り越え、  
活路を見いだすために

文系では全国で初めて大学院生に特化したキャリア支援を手がけた一橋大学。本書ではそのスタッフが、これまでの蓄積をもとに〈研究と就職〉のためのポイントを具体的に・実践的に提供。

研究職志望者・企業等への就職志望者の双方に対応し、ポストドクター・外国人留学生・大学教職員にも役立つ必携のテキスト。

大月書店 定価 [本体 2,400円+税]

アカデミック・キャリア支援、プロフェッショナル・キャリア支援の二本柱。

# 名大プログラムの実践から得た課題

- 当事者にとっては、大学教員として求められる知識とスキルよりも、OD・ポスドクから早く脱出するための戦略・戦術が求められる。
- アカデミックポストに就けない可能性も高いので、社会人としての汎用スキルも必要か
  - いわゆる transferable skills
  - 専門分野の基礎知識に加えて、語学、統計、社会調査、実験、倫理、コミュニケーションスキル（話し方、ライティングなど）、社会常識、礼儀作法など
  - 組織が何を求めているかを見抜く能力・スキル
  - これからの時代に求められる大学院生のキャリア教育は、果たして既存の大学教員に可能か？



# たとえば、哲学ならば、

- 「哲学者を育てる教育」へのニーズは限られる
- 多くの大学が教員に求めているのは、「**良き市民**」「**良き社会人**」に必要な論理的思考、倫理、アカデミック・リテラシー等を学生に伝えること
  - 哲学者をめざさない学生や一般市民に「**哲学的思考の重要性**」をどう語るか
- 「〇〇における△△に関する考察」(いわゆるオケル論文)のような話は学部生にとって、必ずしも身近とは言えない。
  - **しかし、「教養としての哲学」へのニーズは底堅い**

# 提案3. 優秀な学部生に動機づけする

- 「近年、学生の側が博士課程への進学を自己抑制するという現象が生じ始めている」(松下佳代,田口・出口編, 2013年, 76頁)
- 「(前略)僕が関わっている哲学分野で言うと、優秀な学生が大学院に残らなくなった。残りたがらなくなったと言った方がいいかもしれません。いい卒業論文を書いても、見切りをつけてさっさと就職してしまう」(野家啓一, 2008年, 73-74頁)
- **高い学習意欲をもつ学部生の知的好奇心を刺激して、研究に誘う仕掛けを作れないか**
- **たとえば、**
  - 立命館大学オナーズプログラム 正課外
  - 愛媛大学リーダーズスクール(ELS) 正課
  - 九州大学21世紀プログラム 正課
  - 大阪大学 授業「大学教員という仕事」 正課
- **いずれにしても、学位を取得した後のキャリアパスが描けないと、根本的な解決にはならないが。**

# 参考文献

- 佐藤裕・三浦美樹・青木深 一橋大学学生支援センター編著『人文・社会科学系大学院生のキャリアを切り拓く <研究と就職>をつなぐ実践』大月書店、2014年3月
- 田口真奈・出口康夫 京都大学高等教育研究開発推進センター編著『未来の大学教員を育てる 京大文学部・プレFDの挑戦』勁草書房、2013年3月
- 夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子『大学教員準備講座』玉川大学出版部、2010年3月
- 野家啓一「国立大学法人化のジレンマ」『現代思想』36(12)、2008年、68-77頁

ご清聴ありがとうございました。

chikada@tiger.kobe-u.ac.jp

【最後の問い】

「**相手が何を求めているか**」を見抜く能力は、  
どうやって身につければいいでしょう？